

「暮らしの編集学校」を行いました

多古町と「地域課題解決と経済活性化に関する協定」を結んでいる株式会社良品計画が、5月から7月にかけて合計8日間、多古町をフィールドに「暮らしの編集学校」を実施しました。この研修には、株式会社良品計画社員の他、多古町職員、成田国際空港株式会社社員、地域メンターとして多古町で活躍されている方々が参加しました。

与えられたテーマに沿って、フィールドワークで多古町の課題や隠れた魅力を見出し、グループワークで課題解決に向けた事業の計画を作成し、最終日に関係者の前で発表しました。

どの班の発表も、視点を変えて多古町の新たな可能性を見出しており、広がる町の未来を感じることができました。今後も多古町の可能性・発展を株式会社良品計画と共に創っていきます。

※「暮らしの編集学校」とは

雑誌ソトコトの編集長「指出一正さん」監修のもと、地域の暮らしに隠れている魅力を発見し、その魅力を価値として提案できる感性・知性を育てる社内教育プログラムです。

発表内容の紹介

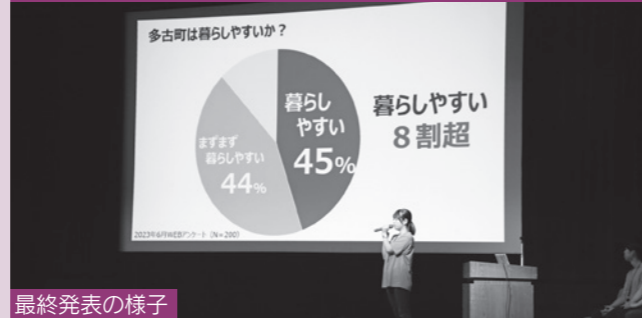
1 班：農業活性化



多古米おむすびを持って記念撮影

田園回帰を達成するために、ブランド米の「多古米」や都会に近く自然豊かなところなど、多古の魅力や有機的につないでいく事業を計画しました。

2 班：暮らしやすい町づくり



最終発表の様子

多古町の少ない人口を逆手に取り、「全員が緩やかにつながる」ことで「より暮らしやすい町」を志向していく事業を計画しました。

3 班：多世代が活躍できる場づくり



グループワークの様子

さまざまな世代が利用できるオープンなシェアキッチンや屋台などを創出することで、来客者や関係人口を増加させる事業を計画しました。

4 班：インバウンドの呼び込み



フィールドワークの様子

どんな未来を創ったらよいかをインバウンドの視点から考え、多古町と無印良品の良い暮らしを「食・体験」から得られる観光・宿泊事業を計画しました。

● 総評

株式会社良品計画
代表取締役会長 金井 政明さん



皆さんよく考え、とても素晴らしい事業計画を提案してくれました。

本日の提案の中身をみんなで一歩ずつ始めていければうれしく思います。

よりよい町になれるようお手伝いしていきたいです。



参加者全員で記念撮影

高校生と考える多古町のミライ

多古町には多古高校とわせがく高校、2つの高校があります。若者世代の声をまちづくりに生かすため、高校生と平山町長の意見交換会をそれぞれの学校で行いました。参加した生徒たちは多古町のことをよく調べた上で、それぞれが思う町の未来を考えてくれました。

町では頂いたご意見を生かして、まちづくりを進めていきます。

【わせがく高校】 - 7月12日(水) -

わせがく高校では、生徒たちがグループワークで多古町のことを調査・研究し、その内容を踏まえた提案を行いました。「子育て支援が充実している」という好意見が出た一方、町の課題として「公共交通機関が少ない」「若者が気軽に入れるチェーン店や遊ぶ場所が少ない」「食べ物以外の特産品がない」「食べ歩きができる場所がない」などの意見も多く出されました。

中には、「運動場やサバイバルゲーム会場を造り、イベントや飲食店を誘致して人の流れをつくる」といった大胆な提案もありました。



【多古高校】 - 7月31日(月) -

多古高校では、生徒会と農業クラブのメンバーと意見交換をしました。多古町の良いところとして「人と人とのつながり」「自然や良い風景がある」「祇園祭のような素晴らしい行事がある」などの意見が出ました。一方で、わせがく高校の生徒たちと同じく、若者向けのスポットや公共交通機関が少ないという話題も出ました。

まちづくりの提案として「開発で伐採した木を活用してアスレチックを造り、アルバイトで高校生が働く」「祇園祭などのイベント情報を高校や他市町村にもっと発信する」といった案や、「高校生がよく使うSNSなどのツールをもっと活用する」といった高校生ならではの目線で提案がされました。



お問合せ●企画政策課広報係 ☎ 76-5417